

東海道草津宿関係史料

(庄屋駒井与左衛門家文書)

(十)

小林

博

〔駒井家文書 一五ノ二〕

宿ニ無遅滞繼立可申もの也

六月廿六日

駿通
御役所

四〇

達書覺

一乘駕籠四挺

此人足八人

一両掛四荷

此人足四人

一馬

壹疋

外人足七人臨時用竟

合人足 拾九人

馬 壱疋

但賃拂

右者急就御用

下間治郷

森川左織

井上謙三

二見鷗介

加藤司馬

明廿七日京地発足越後表へ罷越候条書面之人馬前

四一

覺

御役

触役

奥村光藏
卷原貞之丞

一彈薬 三棹 此人足廿四人

丸目方百五拾疋目

一分持 老荷 此人足壹人

一宿駕籠 武挺此人足四人

合廿九人 但跡拂

東海道大津宿より東近江

路越後高田迄

右宿々問屋年寄

六月廿七日晚丑下刻

大津より

守山へ

右者仁和寺宮御宿陣迄為御用明廿八日当地出立罷越
候間書面之人足無遲滯繼立可申者也

駆通

御役所御印

東海道大津宿より中山道
守山宿より越後国高田迄
六月廿八日已下刻守山へ右宿々間屋年寄

駆通

御役所 大津
御役所 御伝馬所
御触書 告通

御本紙 告通封切添

四二

追而此触書早々相廻し出り宿より宿継を以返納
可致事

大垣藩町人請負用荷物三駄當表込毎月六度往返共届
済相成候間先般相達置候通元賃錢之上へ八倍五割増
請取之無滯繼立可申事

駆通

御役所御印

辰六月

東海道大津宿より中仙道守
山宿より大垣迄

右宿々間屋年寄

前書之通被仰渡拝見承知奉畏候
依之御請印形奉差上候以上

問屋田中信一郎
年寄 治郎右衛門

六月廿九日 午中刻 大津より守山へ

駆通

東海道
守口宿より品川宿迄
佐屋路共

御用辰七月廿九日 問屋年寄

右御本紙封切告通

四三

近來駆鄉及疲弊候ニ付諸海道共々人馬賃錢当五月より
來已五月迄元賃錢六倍五割增被仰出候ニ付而者東海
道熟田今切船賃之儀も追々割増ニ不抱元賃錢之上へ
三倍五割増其余諸海道渡船川越是迄賃錢申付有之候
分都而二倍増を以是亦來已五月迄定賃錢被仰出候條
此旨相心得渡船御用無滯相勤可申者也

駆通

御役所御印

辰五月

東海道守口宿より品川宿迄
右宿々間屋年寄

前書之通被仰渡拝見承知奉畏候依之御請印
形奉差上候已上

問屋田中信一郎

年寄 次郎右エ門

六月廿九日午中刻 大津ら石部へ

四四 追而此触書早々相廻し承知之旨別紙請印相添苗
りる宿送りを以民政裁判所へ可相返候已上

江藤新平

北島千太郎

横川源藏

山田市右衛門

鳴 □右衛門

右者傳馬宿次御用之儀被仰付候ニ付已來申付候条
無滯可相勤もの也

辰六月十四日 民政裁判所

東海道品川宿ら守口宿

迄佐屋路本坂通共

右宿々問屋

年寄

前書御触書之趣拝見承知奉畏候

依之御請印形仕候已上

七月朔日

問屋 源之助

四五

追而此触書早々相廻し判鑑請取之段銘々別紙
請書相添苗りる宿送りを以可相返候已上
裁判所判鑑六拾四枚差遣候条一宿ニ壱枚宛苗置可申
もの也

六月十四日 民政 裁判所

東海道品川宿ら守口宿込

佐屋路本坂通共

右宿々問屋年寄

前書御触書之通拝見承知奉畏候
依之御請印形仕候已上

七月朔日

問屋 源之助

年寄 武 助

一 御判鑑 九枚

内壱枚

當宿へ引

大津宿へ

差引 八枚

御本紙封切壱通
請印帳 式冊

六月廿九日夜 石部宿

翌朔日大津宿へ

年寄 武 助

四六

布告

辰七月四日 大津

県令所御印

東海道筋近江国中限

渡船川場
川越場

役人中

一宿々兵食人馬御用掛リ方々江早々可相達候尤会計
局へも其段相届有之候自今者右之印鑑相用候条是
又同様可申通候此段夫々相心得可申もの也

四條殿

辰五月十七日 參謀

品川宿より大津宿迄

宿々間屋中

追而近江国支配所限別紙請書承知之旨調印いたし
出りより可差返もの也
右東海道筋いづつ村へ繼送リニ付石部宿へ御繼立
仕候已上

駅通司様より御触書毫通

七月四日戌下刻 矢橋浦より受取石部宿へ
翌日卯上刻

四八

別紙御布告四通相達候付助郷村々不洩様相触免状
取集次第取締役老人当御役所へ持参差出し可申事

辰七月 駅通 御役所

大津宿

草津宿

石部宿

守山宿

右宿々傳馬所取締役

相勤可申事

辰六月 驛 通 司

右之通被仰出候間可得其竟もの也

四五

草津宿附属助郷之内難渋之村々追々歎願之趣も有之候付一般御取調之上夫々減勤可被仰付候付而者去午年より昨外年迄十ヶ年免状相束領主支配より下ヶ渡候本紙之儘来廿日迄草津宿傳馬所江差出可申事

但右日限迄ニ免状ふ差出向者追而難渋之趣如何様願出候とも御取上ヶ無之候事

駢遞

御役所

草津宿附属助郷村々

庄屋年寄中

右七月十一日夕刻至來石部守山行御書付之分御

添触共封し切石部へ為持遣候事

触書

東海道
大津宿より品川宿迄

并佐屋路共

五〇

追而本文之通写取之於宿々張紙差出置可申候尚別紙請書相添早々順達苗リ宿より宿継を以返納可致事

一万石以下
五千石迄

東海道

人足拾三人

馬 拾三疋

中仙道并美濃路北陸道并西近江路

西国街道

人足七人

馬 七疋

一 五千石以下 千石以上

東海道

馬 七疋

人足 七人

馬 七疋

人足 七人

中山道并美濃路北陸道并西近江路西国街道

馬 三疋

人足 三人

馬 三疋

人足 三人

馬 三疋

人足 五人

中山道并美濃路北陸道西近江路西国街道

右之通被仰出候ニ付宿々ニおるても此段可相心得者
也

北国街道越後長岡迄
右宿々間屋年寄中

辰七月 駅通 御役所 御印

五二 覚

東海道
大津宿より品川宿迄

并佐屋路共

右宿々間屋年寄共

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印奉差上候以上

七月十一日

一人足 三百拾人
一馬 武拾疋

右明十八日御出立

秋丸市次郎
山本 直助

一人足 三百武拾老人

問屋奥村孫十郎
年寄次郎右衛門

平峯源次郎
田嶋六之進

一人足 三百武拾人
右明後十九日出立

原田八之進
畠田 源助

一

覺
一人足百五拾人
一馬 武拾疋

但質拂

右明十五日十六日之内会津が征討山内土佐守人數出
兵ニ付書面之人馬無遲滯差立可申者也

但出立日限之義者同藩も取極次第先触を以相達

もの也

右米ル廿日出立

右者薩州彈薬明十八日十九日廿日三日ニ割付越後路
出兵者江急速差立候間書載之通人馬無遲滯差出可申
るもの也

辰七月十七日 駅通 御役所 御印

駅通 候答也

大津宿より東近江路鳥居本宿より

駅通 御役所 御印

御役所

五三

駅通御役所

東海道
大津宿

御本紙在中

追而此触書早々相廻承知候旨別紙諸證文相添苗
リ宿ら當御役所へ可相返事

一

御用出兵之向休泊之節米錢共夫々御定を以御拂被
置候付而者代料相當之膳部差出候得者宿方ニおる
て別段足し賄相立候儀者無之管候処從来之旧弊泥
之不申付料理等差出都而宿方難渋之趣申触候者も
有之哉ニ相聞ふ埒之更ニ候方今軍用御多端之御中
ニ者被為在候得共下民之難渋ハ深ク御厭ひ被遊候
御趣竟之程難有拌載仕代料相當之膳部差出候而足
賄等費之不立様可致勿論通行之向へも対し不敬之
儀ハ堅ク致問鋪事

辰七月

駅通

御役所 御印

近江路越後出兵先込

宿々 間屋年寄中

七月十七日子上刻大津ら受取即刻守山繼

立候

大津宿・品川宿迄
佐屋路共

右宿々間屋年寄へ

上

七月廿日

御傳馬所

取締田中九蔵

肝煎 岩太郎

七月廿日巳上刻

大津ら

石部へ

五四

追而本文之通写取之於宿張紙差出置可申候尚
別紙請書相添早々順達苗リ宿ら宿繼を以返納
可致事

一

宿駅難渋ニ付今般格別之御趣意を以御用通行參勤
之諸家ニ至迄追々嚴重被仰出も有之候処夫ニ付宿
方之者共都而心得違致諸家へ対し強情申立ふ法無
礼之振舞し有之哉ニ相聞以之外之事ニ候向後諸家
者勿論軽キ旅人たり共無礼之取扱不仕公私共人馬
無滯繼立往来之難渋ニ不及様可致事
人馬賃錢之儀是追相對与申候得者一既等ニ御定貲
錢倍增受取候事如常法相心得候宿々も有之哉ニ相
聞如何之事ニ候今般六倍五割増被仰出候者諸色格

五五

知事鄉
橋本中將殿

覺

辰七月 駅通 御役所 御印

大津宿より関宿迄

別高値ニ候ニ付無余儀被仰出候儀ニ而元來過分之
増銭ニ候上者候令相對雇上多リ共賃錢格別相達者
有之間敷箋ニ候處御趣竟をも不弁右之上倍增等請

取候条增長之次第ふ埒之至ニ候向後相慎人馬共可
尤郷人夫馬方共ふ謂賃錢貧リ御傳馬所へ差配ニ不
任ふ埒之者有之候ハハ名前取調御役所へ可申出事

判事

元田直太郎分

人足 三拾八人
内人足十四人用竟

成丈引下ヶふ當之賃錢請取申間敷事

尤郷人夫馬方共ふ謂賃錢貧リ御傳馬所へ差配ニ不
任ふ埒之者有之候ハハ名前取調御役所へ可申出事

判事

元田直太郎分

人足 五人
本馬 壱疋

辰七月

権判事

神谷小介分

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

上

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

書記 両人分

馬 武 叠

合人足 五拾六人

馬 武 叠

右度会府御用ニ付明廿一日曉当地発足東海道筋関宿

より伊勢路通行相成候間書面之人馬無遲滞差出可申者

七月廿日巳上刻 大ツラ石部宿へ

肝煎 岩太郎

取締田中九蔵
右宿々 間屋 年寄共
并佐屋路共

七月廿日

御傳馬所

前書之趣拝見承知奉畏候依之御請印形奉差上候以

人足六人

本馬壹疋

判事試補

河田精之丞

人足 五人

夫々伊勢路山田辻

右宿々傳馬所取締役中

右七月廿一日曉寅中刻

大津弓
石部へ

五六

一一一
馬人馬人馬人
足足足
三十六武拾拾
正人正人正人
武拾壹

右者永井左門様御家族并御家來妻子共御知行所河内國茨田郡東村迄御越被成候ニ付書面之人馬出立当日
右三日ニ割合御定質錢を以繼立候儀御聞済相成候ニ
付右之趣被仰渡且先宿々へ者當宿右之趣通達可仕
旨是亦被仰渡承知奉畏候依之御請印形差上申候已上

松村甚左衛門様

辰七月朔日

間屋見習井沢源太郎

五八

覺

越後府駅逓方

一印鑑七拾枚

右者越後府駅通方御印鑑於宿駅為見合毫枚宛相添候間宿々請取之宿継を以早々順達請書相添出り宿返納可致者也

五七

御廻状御達申候然者今般紀州家家族國許江被引越候
ニ付当月六日より廿日迄日数十五之間日々人足七拾五
人馬廿五疋ツツ御定賃錢を以宿々無遲滯繼立可申旨
御達ニ付被仰其竟早々順達可成候此狀苗りより御返却
可被成候以上

辰七月六日

品川宿

井沢源左衛門

川崎宿より大津宿、夫より紀州山口宿迄
宿々御問屋中

七月廿二日戌申刻

石部より大津へ

前書之通承知奉畏候依之御請印形奉差上候已

七月廿一日戌中

大津

七月廿九日 駅通 御役所 東海道 大津宿より品川宿迄
并川々佐屋路共 右宿々間屋年寄中

前書之通被仰渡拝見承知奉畏候依之御請印形奉
差上候已上

前書之通被仰渡拝見承知奉畏候依之御請印形奉
差上候已上

一御印鑑 六十九枚

大津宿御請取

内壱枚当宿ら引

引残り 六十八枚

御請帳壱冊

御本紙封切一通

八月朔日 大津より石部へ

六〇

一 人足 武百七拾人
一 馬 四拾七疋
内 一 武百三拾三人
馬 四拾疋

武百三拾三人

柳河少将分

四拾疋
四拾五人

四拾七疋

五九 追而此触書早々ニ相廻し承知之旨別紙請書相
添割付を以送り宿ら可相返事
街道筋宿人馬井川場渡船賃錢之儀別級案文之通半紙

堅帳ニ相認八月中限宿継を以差出可申事

一脇往還枝道共平生継場有之分是又前条之通相心得最

寄之街道筋宿方ら取調宿継を以差出可申事

辰七月廿九日 駅通 御役所

大津宿より品川宿迄
并川々佐屋路共

宿々傳馬所 取締役人

八月二日 大津より石部へ
御傳馬所

請印帳壱冊

八月二日卯上刻

草津宿

外ニ 人足五人
馬 武疋 用 競

式 武疋 拾式人
武疋 五疋 十時攝津分

立花出雲守分

右者就御用今六日大阪出立東海道筋江戸表へ罷越
候条々無遲滞継立可申もの也

辰八月七日

駅通
御役所

東海道

伏水宿・品川宿・辻

八月七日未刻石部へ
右宿々問屋年寄

六一 差上申御請書之事

道中筋御取締向後ニ付而者都而先々被仰出之趣有之候
今般御一新被仰出末タ諸向之御規則も不相立候故を以
宿々人足共之内如何心得を以道中通日雇之もの往砌無
謂事共申掛候族も有之難義及候趣入御聴右者当今諸処
江御発行之諸家御人数等御継立多候折柄□御差支之
基ニも相成候方追而御規則被為立御取締向御主法被仰
出候迄ハ宿々役人共申合何連も取締筋行届候様仕法致
都而御継立御差支ふ相成候様可仕旨被仰渡承知奉畏候
然ル上者前書御沙汰之趣早々宿々役人共へふ洩様相違
聊ふ取締之義無之様可仕候依之御請書差上申所如件

寛一郎

大竹左馬太郎元支配所
中山道板橋宿

役人物代
名主問屋兼

兵次郎
市右衛門

組頭
佐々井半十郎元支配所

奥州道中千住宿

役人物代
問屋

石出雄三郎
勘兵衛

年寄
忠藏

右忠四郎支配所

甲州道中内藤新宿

役人物代
組頭取締役

間屋名主助役
高松金八

添役
宇八

民政
御裁判所

右之通被仰渡候間此段御達申候此帳面早々順達宿々
御調印之上苗り宿々宿送りを以御返却可被成候已上

辰七月八日

役人物代

年寄 利兵衛

東海道品川宿

民政
御裁判所

七月十日

品川宿

東海道
大津宿より品川宿迄

問屋

井沢源左衛門

夫

東海道

川崎宿より守口宿迄

奥州街道

千住宿より白川迄

佐屋路共

右宿々御問屋中

前書之通拂見承知奉畏候依之御請印形奉差上候已

八月十六日卯上刻 大津より石部へ

上

八月九日

草津宿

御傳馬所

八月九日辰上刻

石部

大津へ

追而此触書早々相廻承知候旨別紙

請書相添送り宿より可相返事

今般定飛脚問屋共願之趣有之京都大阪より東京へ定便下
り方毎月二五八の日並を以本馬四疋 大阪武定 宛九度同
日東京より上り方二六九の日並を以本馬四疋 宛九度上下
合七拾武駅外ニ急便下り方毎月二五八の日並を以本馬
壹疋ツツ九度同上り方二四六九の日並を以本馬壹疋ツ
ツ十武度上下合式拾壹駄都合兩便往返ニ而九十三駄右
者格別之訛柄を以三都飛脚限東海道元賃錢拾倍増を以
通行之儀御聞届相成候事

但定飛脚荷物之義定飛脚与認候絵府を差し宰領之

右者紀州彈薬運送として明十六日京地発足奥州白川
迄差立候ニ付書面之人足於宿駅無遲滯繼立可申者也
八月十五日 駅通

御役所 御印

紀藩池田利八郎

塩谷長次郎

第ふ苗置早速繼立可申事

者定飛脚認候焼印札を持宿々へも右札者渡置往
返可致苦ニ付候其旨相心得右焼印札引合繼之可
申候尤御用物者格別其外之荷物宿場到着之順次

六四

早追 一 宿 駕	引而駕 一 橐挺 此人足四人	外國官判事試補	都築莊藏 家來老人
-------------------	-------------------------	---------	--------------

覺

御觸書 大津宿
御本紙

右御本紙封切橐通
并大津宿より請印帳一冊添

八月十八日 大津より
石部へ

八月十五日 駅通 御役所	守口宿より伏見宿迄 東海道
八月十八日 奥村孫十郎 佐屋路共	右宿々傳馬所役人中 大津宿より品川宿迄
八月十八日 外上刻 宿々 傳馬所役人	大津より加奈川宿迄

六五

六月五日駅通御役所より御呼出ニ付片岡乾八罷出候所
判事奥田鎌介を以御書付式通御渡左之通

改正仕法書

一是迄宿々間屋役人助郷惣代共風儀甚ふ宜互ニ相歎
キ或者馴合其間ニ種々奸曲ヲ生并会所寄場ヲ始諸
入用二重ニ相成無用之雜費不少却而混雜ふ寄理之
基ニ有之候ニ付以来宿助郷共一体ニ組立掛り役人
共一和ニ取締為致候事
一宿助郷一体ニ組立候ニ付而者是迄間屋役人并助郷
惣代杯等申称号ヲ廃し新規傳馬所取締役を置萬事
差配為致候事
一傳馬所取締役之余役人共之儀者宿方住居之ものニ

合人足拾人 貲拂

右至急就御用明十九日京地発足横浜迄罷越候条書面
之人足東海道宿々無遲滯繼立可申者也

不抱宿助郷組合一統之内る人望右之其任ニ応し候
もの入札を以出役為致候事

一

宿助郷一体ニ付而者宿方ニおるて以來別段持立馬
ニ不及宿方ニ隨ひ而助郷同様之割合可差出事

一

持立馬之義格別之御趣意を以御免被仰付候得共是
ル為ニ急繼立等差支候様ニ而者御趣立ニも相背キ
候ニ付通行何時ニ而も差支申様宿助之心得を以夫
々相應之人馬平常用竟可有之候事

一

是迄前幕府之暴政ニより又者間屋共ふ取締ニ付多
分之借財出来致居候由相聞候得共右者於王朝御救
助之筋ニも難及折角御一新之御仕法と相立候而も
右旧借等ヘ混雜いたし実励不相候様ニ而者不相
濟候間旧借之義者別段宿方領主等ニおるて取調濟
方仕法相立候上其旨御役所へ可届出事

一

駅々最寄次第御料宮堂上方領社領寺領とも一般助
郷ニ組込丸東海道七万石中山道ニ二万五千石脇街
道ニ一万石程之見込を以為致附屬候付而者諸候城
下其余在郷明々至迄石高ニ有之分者助郷ニ組合候
事

但石高四分勤永引除之并手明キ村々之義者追

而難村取調之上組替可申付事

人馬触当之儀者勤高ニ不抱村柄ニ応し為差出右質

錢余荷之儀者惣助郷高を以割合可申事
右之通今般御仕法替被仰出候付而者宿助郷役人共勿
論領主ニおるても精々心付御趣竟之程相貫候様施行
可致もの也

辰六月 駅通司

右之通別紙宿助郷改正被仰出候付而者傳馬所取締
役人撰之義第一之急務ニ付宿助郷共雛形之通ふ渉
様一村毎ニ入札為致來ル迄ニ取束封之儘當御役所
へ差出可申事

但国違全勤之分並請即ふ相濟向者入札為致
ニふ及事

雛形左之通

御上之覺

一 同 断 村 誰

但老ヶ年老人ニ付雜用人足何程
右兩人共実体之者ニ付何駅傳馬所取締
役被仰付候様仕度候已上

月 日 何 郡 何 駅 村 誰
年 寄 質 何 郡 何 駅 村 誰
庄 屋 質 何 郡 何 駅 村 誰

右御仕法書慶応四辰六月十日

庄屋駒井与左衛門

問屋高田治郎八

奥村孫十郎

太田又四郎

膳所郡御役所江罷出候処

御地方沢田啓助様

鈴木庄蔵様

右御書付御渡ニ相成候ニ付早速写取同夜酉刻一同致
帰宿早々助郷方へも申通し置候事

